



記 入 日 2013 年 1 月 13 日

## 1. 概 要

実践団体名	和歌山大学 防災教育チーム SAZANKA		
連絡先	090-6919-8071		
プランタイトル	みんなのまちの防災手帳☆		
プランの対象者※1	2, 3	対象とする 災害種別※2	1

※1 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

## 【プランの目的・ここがポイント!】

- ・ 子どもたちの防災意識を高める。
- ・ 防災手帳に工夫を加え、子どもたちと一緒に防災手帳を完成させていくことで、防災に関する知識の定着を図る。
- ・ 南海トラフ巨大地震が近々予想されている和歌山に住む私たちだからこそ、和歌山という地域に根付いた防災手帳の開発につとめる。

## 【プランの概要】

- ・ 防災手帳をはじめとするオリジナルの防災教材を作成する。
- ・ オリジナルの防災教材を使用して、小学生ぐらいの子どもたちを対象に防災授業を行う。

## 【期待される効果・ここがおすすめ!】

- ・ 大学と教育機関との連携により、防災意識を高める。
- ・ 作成した防災教育教材により、初等教育対象者の防災知識の習得をはかる。
- ・ 子どもたちの防災意識を高めることで、未来につながる防災教育を目指す。

## 2. プランの年間活動記録 (2012 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月			
5月	「こどもげんきひろば」で授業を行うことが決定。		
6月	防災まちづくりイベントへの参加が決定。	「こどもげんきひろば」での授業内容考案	
7月		ボランティア講習会に参加。 防災カルタ、防災クイズ作り	
8月		授業のリサーチ 防災まちづくりイベント発表用資料作成。	18日、25日「こどもげんきひろば」で防災授業実施。
9月			1日、2日防災まちづくりイベントに発表者兼スタッフとして参加。
10月	みんなの学校で授業を行うことが決定。		
11月		宣伝用ポスター、チラシ作成。 授業内容考案。	
12月		小学校やマスコミで宣伝活動を行う。授業で使用する小物の作成。	
1月		授業リハーサル	12日「みんなの学校」で防災授業を実施。

2月			
3月			

### 3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：①】※3

タイトル	こどもげんきひろば
実施月日（曜日）	8月18日、25日
実施場所	和歌山国際交流センター
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：岸 寛子 所属・役職等：SAZANKA 代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間×2回
プログラムのカテゴリ、形式※4	1、11
活動目的※5	1
達成目標	外国につながる子どもたちに防災に興味を持ってもらう。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	SAZANKA のメンバーは、外国につながる子どもたちと関わる事が初めてだったため、まずボランティア講習会を受講して、子どもたちとの関わり方を学んだ。 18日の授業では、SAZANKA オリジナル防災カルタを行なった。 25日の授業では、SAZANKA オリジナル防災クイズと、非常持ち出し品の紹介を行なった。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	画用紙 模造紙 防災グッズ（貸出）
参加人数	子どもたち10名、サザンカメンバー7名、国際交流センタースタッフ5名
経費の総額・内訳概要	防災グッズ（後日買取）
成果と課題	【成果】 外国につながる子どもたちに、地震がおこった直後の適切な行動や、非常持ち出し品などについて知ってもらうことができた。 【課題】 積極的な子と、おとなしい子では接し方を工夫すべきだということが分かった。
成果物	防災カルタ、防災クイズ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

## 【実践プログラム番号：②】※3

タイトル	防災まちづくり
実施月日（曜日）	9月1日、2日
実施場所	県民交流プラダ 和歌山ビッグ愛
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：塩崎 萌 所属・役職等：SAZANKA 副代表
所要時間または 「コマ数×単位時間」	6時間×2日
プログラムの カテゴリ、形式※4	1
活動目的※5	3
達成目標	地域の人々の防災意識を強める。
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	防災まちづくりイベントでは、防災地産地消展と防災活動発表会が行われた。防災地産地消展ではスタッフとして、防災グッズを地域の人々に紹介した。防災活動発表会では、発表者として SAZANKA の活動報告を行なった。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	発表用のパワーポイント
参加人数	NPO 震災から命を守る会 5名、SAZANKA メンバー 8名、イベントボランティア 10名、地域の人々多数
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 地域の人々の防災に対する意識を高めることができた。 また、地域の人々に SAZANKA を知ってもらえる機会にもなった。 【課題】 若い世代の参加が少なかったため、若い世代を集める工夫が必要である。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

## 【実践プログラム番号：③】※3

タイトル	集まれ！！防災キッズ☆
実施月日（曜日）	1月12日
実施場所	みんなの学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：塩崎 萌 所属・役職等：SAZANKA 副代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 1
活動目的※5	2
達成目標	子どもたちの防災意識を高めるとともに、自分だけの防災手帳を作ってもらおう。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	小学校へのチラシ配りや新聞掲載などをして、和歌山市内の子どもたちを集めた。授業は SAZANKA オリジナルの防災手帳を使用して行なった。 授業内容：①地震が起きた直後にとるべき行動を色々な場面で考える。②自分の家の近くの浸水予測と避難所のチェック。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	防災手帳50部 画用紙
参加人数	子ども14名、親御さん8名、SAZANKAメンバー8名
経費の総額・内訳概要	防災手帳印刷代
成果と課題	【成果】 初めて防災手帳を活用した授業を実施することができた。 【課題】 当日準備に時間が掛かり、参加者を待たせてしまったため、準備計画をしっかりと立てる必要があると感じた。
成果物	防災手帳

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

#### 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>和歌山で初めて『世界につながる子どもたち向けの防災授業』の依頼を受けた。子どもたちの日本語の理解力がわからない中で、参加する子どもたち全員がより内容を理解できるように「やさしい日本語」とジェスチャーを使った授業内容を計画した。</p> <p>様々な家庭事情を抱えた子どもたちが同じような境遇の子どもたちと接し、楽しい時間を過ごせるようにゲームや夏休みの宿題を一緒に取り組むことでより親近感をもってもらえるように工夫した。</p> <p>和歌山市の中心部にある「みんなの学校」という共同スペースを拠点に2か月に1回授業を行うことを試みた。資金源がない私たちが、活動拠点を持つことは困難だったが、審査に通り無事場所を確保することができた。中心地で授業することは、各小学校から参加してくれた子どもたちが授業で得た防災意識・知識を地域に持ち帰り少しずつでも広めていってくれることと願い、実施した。</p>
<p><b>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>もともと知識がない中だったので、国際交流主催の「やさしい日本語講座」を受講し、授業作成の参考した。イラストを見ただけで内容がわかるようにオリジナルの防災カルタを1から作成し、防災知識を理解できるようにした。実際に撮影した写真を用いて3択形式の防災クイズの作成を行なった。</p> <p>広報活動のために、和歌山市内の各小学校にアポイントメントをとり、イベントのポスターやビラを配らせてもらえるか許可を得るために奔走した。初めての大規模な広報活動なので市内全域で配るのではなく、10箇所ポイントに絞って取り組んだ。このことから、広報活動の大変さを痛感した。</p> <p>また、ターゲット層を小学生以上とすることで、ある一定の知識を身につけた子どもたちを対象にし、ターゲットをより限定することにした。さらに、堅いイメージのある防災教育をより身近に興味をもってもらえるように大学生の私たちに授業形式を考えた結果、楽しく学べるようにコントを交えた防災授業を展開した。</p>

**実践に  
当たって  
苦労した点  
工夫した点**

こどもげんきひろばでは、小学校低学年の子どもが多かったため、集中して静かに話をきいてもらえるように少し間をあけて話したり、声のトーンや強弱に気を付けたりしてメリハリのついた授業の流れを心がけた。特に「やさしい日本語」を使用することが難しかった。実際、日本語をある程度話せる子どもがほとんどでしたが、その程度の言葉なら理解できるのか、その都度確認し、もしわからないようならわかりやすく説明することを繰り返した。身近な年齢である私たちに、すぐに心を開いてくれたが、逆に賑やかになりすぎて授業の進行に苦労した。集まれ！！防災キッズでは、親御さんや取材の方達など大人の方への対応に苦労した。子ども向けの楽しい授業内容が社会人の方視点から見るとふざけているようにも見えるということが分かった。



## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織		
保護者・ PTAの組織		
地域組織	まちなか交流スペース「みんなの学校」	授業場所の貸出
国・地方公共団体・ 公共施設		
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	NPO 震災から命を守る会	震災から命を守る会主催の町づくりイベントに参加。
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SAZANKA オリジナルの子ども向け防災教材を作成することができた。特に防災手帳は、書き込み式にする、持ちやすい大きさにする、ページをリングで止めることで重要なことがあれば、その度に挟んでページを増やせるようにするなど、子どもたちに愛着を持ってもらえる工夫を盛り込んだものにできた。</li> <li>子どもたちに伝える力が身に付いた。</li> <li>授業の告知などで様々なメディアの取材を受けて、私たちの活動の必要性と、注目されている事を実感した。</li> <li>授業を実際行った中で、子どもたちに質問を投げかけると、積極的に手を上げてくれ、発表してくれる子がほとんどで、質問に対する答えも的確であることから、防災意識の高さを感じた。しかしその気持ちを今だけのものにせず、ずっと持ち続けられるように私たちがサポートしていくことが大切であると感じた。</li> </ul>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<p>教材作りに時間をかけすぎたため、授業回数が少なくなってしまった。しかし、少ない授業回数の中でも、子どもたちが真剣に話を聞いてくれ、一生懸命に答えてくれるようすをみて、この活動のやりがいを感じた。親御さんも熱心に協力してくれたことで、私たちが考えていた目標の一つの、「地域ぐるみの防災教育」を小規模ではあるが行えたように思う。子どもたちに防災に興味を持ってもらえるような「楽しい」授業作りには、まだまだ改善の余地があるためこれからじっくり考えて行きたい。</p> <p>また、今後授業を行う際には、大人の方向けの授業の趣旨説明用プリントを制作する必要があると感じた。</p>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<p>今まで作った防災教材を使用して、防災授業を様々な場所で活発に行って行きたいと考える。</p>

## 7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

◇8月18日子どもげんきひろばでの活動の様子

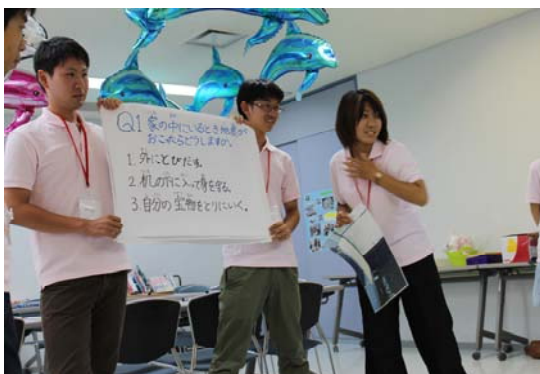


SAZANKA オリジナル防災カルタ



カルタの説明を聞いている様子

◇8月25日子どもげんきひろばでの活動の様子



防災クイズの様子

(自由記述: 1/3)



クイズの表彰式の様子

◇9月1日防災まちづくりでの活動の様子



防災活動発表会の様子

(自由記述: 2/3)

◇ 1月12日集まれ!!防災キッズ☆での活動の様子



質問に答えてくれている様子



子どもたちが手帳に答えを書き込んでいる様子



避難所を確認している様子

(自由記述: 3/3)